

○ 本校の概要

開校100周年を2年後に控えた伝統校である。今年度は25学級818名の規模である。また、今年度から来年度までの2年間、大田区教育委員会の教育研究推進校として新教科「おたの未来づくり」の先行実践とともにSTEAM教育に取り組む。そこで今年度の学校経営のキーワードを「innovation」(新しい捉え方 活用法)「sharing」(情報共有)「the other」(相手意識)とし、研究を通して子供たちには様々な事象の課題を把握するとともに、試行錯誤しながらそれらを解決する力をはぐくむことを目指す。

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善案	学校関係者記入欄				
								評価	人数	コメント		
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:4	4:4	前者については、学校公開日を増やすことにより昨年比2.7%増と一定の成果が現れたが、88.6%にとどまった。来年度は土曜授業日が公開日となるため、事前の周知を工夫し多くの参観者を集める努力をする。後者は93.0%と高水準を維持している。	A	6	・学校公開を各学期2日間制限なく参観できるように戻すことは、よい取組と考えるので、継続をお願いしたい。 ・ネガティブな評価についても、原因を突き止め対策されることをお願いしたい。 ・「個に応じた指導」は、保護者の期待の大きさの表れであり、現状の課題でもあると思います。 ・よく工夫していると思います。 ・素晴らしいと思います。 ・全体を通して充実した教育活動が実践されていると評価できます。		
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3:3	それぞれ90.9%、91.1%と目標を達成している。今年度と来年度は独自教科「おたの未来づくり」を通じた区の教育研究推進校に指定されていることから、研究を通して対話し試行錯誤を繰り返すことで、一人一人の達成感が得られるようにする。		B	1			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4	3:3			C	0			
		他人の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2:2			D	0			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:1			「子供は勉強が分かり基礎的・基本的な学習内容を身に付けている」「子供は学習活動に意欲的に取り組んでいる」4:90%以上である。 3:85%以上である。 2:80%以上である。 1:80%未満である。	A		6	・子どもがぶよぶよの授業が楽しかったと言っていた。時代に即した学びができて素晴らしいと思う。 ・高評価でよかったと考える。「おたの未来づくり」を進めていくには、いろいろと難しい点もあると推察するが、成果が出ることを期待する。 ・「おたの未来づくり」への取組を通じて、子どもたちの自己肯定感や達成感が育まれていくことを期待します。 ・素晴らしいと思います。 ・全体を通して充実した教育活動が実践されていると評価できます。 ・外国語の授業に関しては、学ぶ意欲を低下させている内容だと思いました。
		校内研究を中心に、課題解決力をはぐくんでいる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:1				B		1	
学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	4:4	C	0							
算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	4	3:3	D	0							
学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3	2:2	「学校は子供の良い点や努力が分り基礎的・基本的な学習内容を身に付けている」「子供は学習活動に意欲的に取り組んでいる」4:90%以上である。 3:85%以上である。 2:80%以上である。 1:80%未満である。	A	7	前者は93.7%後者は95.9%の回答を得た。それぞれ昨年比2.5%、4.1%と数字を伸ばしている。通知表「のびる子」の所見をはじめ日々の教育活動において、肯定的な評価に徹している姿勢や生活指導事案の発生時に適切な指導を積み重ねていることが評価されたものと考えている。					
授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:1		B	0						
主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を実施するとともに、ICT機器を恒常的に活用している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:4		C	0						
道徳教育推進教師を講師とした研修や、区、都及び市の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:3		D	0						
学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:2		「学校は体育朝会や休み時間の外遊びの推奨を通して体力向上に取り組んでいる」「子供は外で元気よく遊んでいる」4:90%以上である。 3:85%以上である。 2:80%以上である。 1:80%未満である。	A		7	・学校が運動を奨励することは評価できる。休み時間に多くの児童が校庭で遊んでいる。元プロ野球選手を招いての投げ方教室もよい取組だと思うので、他学年への展開もお願いしたい。 ・ゲストティーチャーによる出前授業の取組がともよかったと思います。 ・素晴らしいと思います。 ・全体を通して充実した教育活動が実践されていると評価できます。			
学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1:1			B		0				
問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたの会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4:4	C		0						
教育活動を全体を通して、自己肯定感や自己有用感を実感できる指導をしている。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1:1	D		0						
「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:4	前者は93.0%後者は94.0%とそれぞれ昨年比1.9%、3.7%の増となった。プラン1の結果から授業の中身について改善の余地があるが、教育活動を積極的に公開してきたことには一定の成果が表れていると考える。また、教職員がチームとなって組織的に問題解決している姿にも一定の評価を得られたと考えている。		A	7	・「校長室から」を毎日更新していただき、ありがとうございます。 ・能登半島地震があり、大きな地震がまた心配なので、登校ルートやブロックのチェックなどを時折出来たら良いのではと思っています。 ・コロナ前の生活に戻ったので、家庭・地域との連携も従来のように行えることを期待する。 ・ホームページはよく拝見しております。 ・伝統の継承をお願いします。 ・全体を通して充実した教育活動が実践されていると評価できます。				
給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	3:3			B	0					
体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	2:2		C	0						
「山王オリンピック」をはじめ委員会活動を充実させることにより、体力向上に取り組む児童をはぐくむ。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:1		D	0						
授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:4		「学校は教育活動の内容(学校の情報や子供たちの様子)を手紙やホームページなどで伝えている」「学校は学校行事に地域の協力を得ている」4:85%以上である。 3:80%以上である。 2:75%以上である。 1:75%未満である。	A	7					
授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3:3			B	0					
各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2:2	C		0						
校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:1	D		0						
研究授業や授業公開を組織的に実施し、授業力向上に向けた研鑽に励んでいる。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	4:4	それぞれ94.4%94.2%となり、昨年比1.9%、2.1%の増である。引き続きホームページなどの充実を注ぎ、教育活動を発信する。後者については、コロナ明けという点も加味されたものと考えている。数字に慢心せず、開校100周年に向けて保護者地域との関係性を強化していくことが重要と考えている。		A	7					
教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:4			B	0					
地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、公正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:「おおむね」情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4	3:3		C	0						
学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2:2		D	0						
保護者等の要望に対し、相手意識をもつとともに対応策を具体的に示しながら、迅速な対応ができていく。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	1:1		「学校は教育活動の内容(学校の情報や子供たちの様子)を手紙やホームページなどで伝えている」「学校は学校行事に地域の協力を得ている」4:90%以上である。 3:85%以上である。 2:80%以上である。 1:80%未満である。	A	7					
						B	0					
				C		0						
				D		0						

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。